

施策番号	施 策 名		予算額（百万円）
322	大気環境の保全		369
【2010年度の目標】			
一人ひとりの生活様式や事業活動が大気環境に配慮したものとなり、窒素酸化物などの大気汚染物質や二酸化炭素（CO ₂ ）などの地球環境に関わる物質の排出が削減されています。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 （2010年度の目標）
大気汚染の環境基準	（1995年度） 一部未達成	一部未達成	全地域においておおむね達成・維持 （全地域において達成・維持）
大気汚染の県環境保全目標	（1995年度） 一部未達成	一部未達成	全地域においておおむね達成・維持 （全地域において達成・維持）
低公害車導入台数（LEV車含む）	（1995年度末） 372台	約1,000台	10,000台 （新規購入車の多くが低公害車に移行見込）
二酸化炭素排出量	（1990年度） 一人当たり排出量 3.41 t-C / 人	（1997年度） 3.99 t-C / 人	温暖化防止京都会議を踏まえできる限り削減 （同 上）
市町村のフロン回収実施率	（1995年度末） 3%	86%	家電リサイクル法によるメーカー回収へ移行 （同 上）

これまでの取組

ダイオキシン類の大気環境基準は全調査地点で達成され、他の大気汚染物質についても改善傾向にあるものの、光化学オキシダント、ベンゼン、二酸化窒素、浮遊粒子状物質について環境基準を超過しています。一方、地球温暖化対策については、平成11年度に「三重県地球温暖化対策推進計画（チャレンジ6）」を策定し、1990年に対して2010年の温室効果ガスの排出量を6%削減する目標を設定しました。

平成13年度取組

平成13年度においては、引き続き大気環境の保全を図るため工場、事業場や環境の監視を実施するとともに、県民の関心の高いダイオキシン類等有害大気汚染物質についての環境調査を行い、結果をわかりやすく公表します。

また、地球温暖化対策を推進するため、県民、事業者への普及啓発に努めるとともに、チャレンジ6を実効あるものとするために、燃料等の使用量が多い事業者に温室効果ガス削減のための計画の策定を促すほか、自動車運転者の責務としてのアイドリングストップや低公害車の導入の促進を図ります。

さらに、酸性雨・酸性霧の実態把握を継続するとともに、新たに、発癌性や内分泌攪乱作用が疑われる大気中有害化学物質の分析法等に関する研究を行います。

主な事業

- 1 ダイオキシン等環境調査事業 (84,598 (70,580)千円)
【(401)有害大気汚染物質対策の推進事業】[環境部]
ダイオキシン等の有害大気汚染物質による汚染状況を把握し、地域ごとの経年変化を検証したうえで、わかりやすく迅速に調査結果を公表し県民と行政がリスク認識の共有化を図り、地域全体で取り組むための場づくりを進めます。
- 2 地球温暖化対策推進計画促進事業 (1,922 (0)千円)
【(501)二酸化炭素等排出抑制対策の推進事業】[環境部]
三重県地球温暖化対策推進計画の実効を上げるため、温室効果ガス排出量の算定などの進行管理を行うとともに、市町村、事業者等に温室効果ガス排出抑制実行計画の策定説明会等を行います。
- 3 大気及び水質テレメータ維持管理事業 (130,999 (125,850)千円)
【(801)監視、観測体制の整備と環境情報の提供事業】[環境部]
大気及び水質テレメータにより環境及び工場や事業場の常時監視を行います。
- 4 騒音、振動、悪臭対策事業 (26,475 (26,475)千円)
【(701)騒音、振動、悪臭対策の推進事業】[環境部]
騒音、振動、悪臭公害を解消するため、公害の実態把握、工場や事業場への立入検査、主要幹線道路沿いでの自動車交通騒音の測定を実施します。
- 5 酸性雨・酸性霧実態調査事業 (2,080 (2,080)千円)
【(102)大気環境保全研究推進事業】[総合企画局科学技術振興センター]
酸性雨の実態把握のため、長期的な雨、霧、露の酸性化調査の実態把握を行います。
- 6(新)大気中有害物質の動態把握に関する研究事業 (1,776 (1,776)千円)
【(102)大気環境保全研究推進事業】[総合企画局科学技術振興センター]
福井県、滋賀県、岐阜県及び三重県の試験研究機関の緊密な連携・交流のもと、大気中の有害化学物質による環境汚染や健康被害を未然に防止するため、大気中有害化学物質の分析法開発及び動態把握を行います。

<主な見直し項目>

「フロン回収・処理推進事業補助金」は、家電リサイクル法の施行により廃止。

「山地森林環境保全事業費」は、研究目的を達成したため廃止。